



手稲山の初冠雪10日後に札幌市街でも？

北海道で10月を迎えると空知地方でも、月末には初雪に見舞われることがあって、何人か集まると昨年は何日に降ったとか、その後に何回か降雪を経験して11月の半ば頃になると、これが根雪になるか？の話題にもなるから面白い。今年の夏は長雨にたたられ、気温も上がらない変な夏だったのに、山には正直に冬の使者はやってくる。そのうえ今年は6月下旬に道内の山で雪が観測され、夏山と呼ばれる期間が短かった。

一般に、山の紅葉は2日間で百米の速度で下がるといわれるが、山の初雪は上空に寒気が入ると紅葉前でも降ることがあるらしく、札幌の手稲山では10月16日が初冠雪の平年日に当たるといふ。徐々に低い山や南の地方の山にも冬の第一陣が近づいている。地上で初雪を予想するのは難しいが、上空千五百米の気温が氷点下六度になるのが目安といわれる。

当然だが初冠雪は高い山、北の地方の山ほど早い。今年も旭岳と羊蹄山が9月24日、利尻岳は10月9日に観測され、ほぼ順番通りであったそうである。統計では、手稲山で初冠雪を観測してから10日後ぐらいに札幌市内で初雪が降ることになる。つまり、雪が手稲山の山頂から地上まで千米を降りるのに10日を要するわけだが、急ぐ必要はない。小春日和よ続け、雪よまだ降るな。

(雨田 実記)